

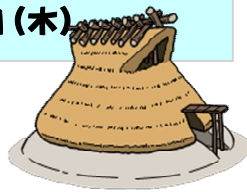


静岡市立清水小河内小学校 出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年6月22日(木)



「本物に触れることで、また体験することで、理解が深まりました。」

静岡市立清水小河内小学校の6年生8人が、社会科の授業「縄文・弥生時代の暮らしを体験しよう」で、縄文・弥生時代の暮らしに関心を持ち、理解を深める目的で、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの3つの体験を行いました。

土器の分類体験

教科書や資料集などの書籍で見たとの異なる土器に触りながら、縄文土器、弥生土器、須恵器の違いを感じ取っていました。3つの土器の土器片を手に取り、完形土器と見比べながら、特徴を捉えて分けることができました。

その当時の人たちが使っていた物に触れられたことに感激していました。

「縄文土器と弥生土器の違いがはっきりわかった。」

「写真でしか見たことのなかった土器の感触がわかった。」



石器の試し切り体験

「黒曜石を初めて見た。切れ味が鋭くてびっくりした。」

打製石器、磨製石器、黒曜石の使用法を学び、発掘された実物の磨製石斧の表面のなめらかさに驚いていました。石で野菜が切れると思っていなかった子どもたちは、黒曜石の切れ味にとっても驚いて、何度も野菜を切り刻んでいました。



火起こし体験

もみぎり法、弓ぎり法、舞ぎり法などの火起こしの方法を学び、ひとりひとりが舞ぎり法で火起こしにチャレンジしました。初めは、弾み車を上手に回せなくて苦労しましたが、徐々に慣れてくるとコツがわかりうまく回せるようになりました。全員が火を起こすことができました！

「昔の人は大変だった。火起こし器も少しずつ進化していた。」



先生方の感想

「何よりもやはり本物に触れることで、また体験することで、理解が深まりました。体験を通して楽しみながら学ぶことができました。本などで得た知識が体験することにより、すごいなあといった実感を伴い、子どもたちの心に残ったと思います。教科書では知り得なかったことを所々で説明していただき、とても有難かったです。また、テンポ良く進めてくださったおかげで、子どもたちも飽きることなく集中して楽しく活動できました。歴史の学習の導入期に、このような出前授業をしていただくと、歴史に興味をもつ子どもも増えるだろうし、歴史嫌いも減るのではないかなあと思いました。」

